

令和3年3月29日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 宮崎県宮崎市橘通東1丁目9番10号
管理機関名 宮崎県教育委員会
代表者名 日隈 俊郎 印

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月10日（契約締結日）～令和3年3月31日

2 指定校名・類型 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）

学校名 宮崎県立飯野高等学校
学校長名 長谷川 岳洋
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

地域価値を創造するグローバル・ヒーロー育成に向けたカリキュラム開発および実践

4 研究開発概要

本校では、学科・コースごとにすべての生徒が地域をフィールドに探究活動を行っている。このことから、地域課題に関心がある生徒も多く、地域の団体と連携して生徒主体のイベント実践や継続的に様々な活動が行われるなど本校生が地域に欠かせない存在になっている。また、本校の位置する宮崎県えびの市は、国内の過疎地域と同様に多くの社会課題を抱えており、地域課題を考えることが社会課題を考えることにも通じる。そこで、市内唯一の県立高校である環境を活かし、これまでの「地域学」を発展させ、新たな価値の創造と地域社会で活躍するグローバル・ヒーローを育成するための3年間を見通した体系的・系統的な実践型地域課題解決学習のカリキュラムを開発・実践やその体制構築を行う。開発・実践に当たっては地域の団体、事業所、大学などと連携して、地域における課題、貢献意識を持つ人材育成により、地域創生の核となる高校を目指す。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- | | | | |
|-------------|--------|---|---------|
| ・学校設定教科・科目 | 開設している | ・ | 開設していない |
| ・教育課程の特例の活用 | 活用している | ・ | 活用していない |

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
津曲 洋一	えびの電子工業株式会社 代表取締役社長	
明石 秀人	明石酒造株式会社 代表取締役社長	
矢野 健二	宮崎国際大学 地域連携センター長・大学部長	
福永 栄子	株式会社アイロード 代表取締役社長	
石坂 乃里子	えびの里山の会 会長	

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
えびの市	市長 村岡 隆明
えびの市議会	議長 北園 一正
飯野高校同窓会	会長 宮浦 佳紀
えびの市教育委員会	教育長 永山 新一
えびの市自治会連合会	会長 宮久保辰二
えびの市農業協同組合	組合長 小吹 敏博
えびの市商工会	会長 白石 昌彦
えびの市観光協会	会長 仁科 博
えびの市地域婦人連絡協議会	会長 春口 貞子
えびの市子ども育成連絡協議会	会長 市来 孝之
えびの市体育協会	会長 柳田 和幸
えびの市社会福祉協議会	会長 瀬戸崎恵子
えびの市民生委員児童委員協議会	会長 上野 憲昭
えびの市教育・保育施設園長会	代表 友清 潤
えびの市青少年育成市民会議	会長 村岡 隆明
えびの市高齢者クラブ連合会	会長 徳澄 季喜
飯野高等学校 PTA	会長 川野ひとみ
えびの市中学校校長会	会長 水俣 義雄
宮崎県議会	議員 中野 一則
えびの市 PTA 連絡協議会	会長 平 正人
えびの市立飯野中学校	校長 日高 亘
えびの市立飯野小学校	校長 唐仁原幸吉

飯野高校魅力化コアチーム

飯野高校魅力化校内推進委員会	指導教諭 梅北 瑞輝
VoiceGift Lilybell 代表	代表 遠目塚文美
えびの市青年会議所	理事長 大門 哲也
明石酒造株式会社	専務 明石 秀暢
大正大学 地域創生学部	大学教員 山中 昌幸
NPO法人ニシモロベース	代表理事 上水流秀明

えびの市地域おこし協力隊	鈴木 尚洋
えびの市企画課	課長 黒松 裕貴
HANNAH	代表 村上 大輔
(株)BEBUYA	代表 坂元 一貴
宮崎大学 地域資源創成学部	教授 根岸 裕孝
宮崎大学 地域資源創成学部	教授 丹生 晃隆

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	山中 昌幸	大正大学 講師	
海外交流アドバイザー			
地域協働学習支援員	遠目塚文美	VoiceGift Lilybell 代表	

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
飯野高校魅力化の会			20日 実施									
運営指導委員会							12日 第1回				19日 第2回	
魅力化コアチーム			24日 第1回	27日 第2回								

(2) 実績の説明

- ① 事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成、カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

[コンソーシアムの構成団体]

・飯野高校魅力化の会

えびの市、えびの市議会、飯野高校同窓会、えびの市教育委員会、えびの市自治会連合会、えびの市農業協同組合、えびの市商工会、えびの市観光協会、えびの市地域婦人連絡協議会、えびの市子ども育成連絡協議会、えびの市体育協会、えびの市社会福祉協議会、えびの市民生委員児童委員協議会、えびの市教育・保育施設園長会、えびの市青少年育成市民会議、えびの市高齢者クラブ連合会、飯野高等学校 PTA、えびの市中学校校長会、宮崎県議会、えびの市 PTA 連絡協議会、宮崎県立飯野高等学校

・魅力化コアチーム委員会

大正大学、宮崎大学、飯野高校、VoiceGift Lilybell、えびの市青年会議所、明石酒造株式会社、NPO法人ニシモロベース、えびの市地域おこし協力隊、えびの市企画課、HANNAH、(株)BEBUYA、(有)東康夫養鶏場

[カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて]

・活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
6月24日(水)	魅力化コアチーム委員会(全5回)への参加 各委員の意見をふまえ、県外等での事例や実績等についての紹介や解説、本校における活動の発展性など協議での先導的な役割を果たした。以下は、カリキュラム開発専門家による助言およびテーマの提供
7月27日(月)	
9月16日(水)	
12月4日(金)	
1月27日(水)	
6月24日(水)	カリキュラムに関する指導助言 授業見学、テーマ設定のワーク実践
8月1日～18日	オンライン面談(アイデア出しと視野を広げるための支援)
9月23日(水)	ポジティブアプローチ、キャリアやテーマの考え方を理解する指導法について
30日(水)	
11月2～3日	地域のパートナーとのプラン作りについて
12月4日(水)	個人のキャリア開発について
1月11日(水)	地域リサーチの取組方について
1月18日(水)	各企画のブラッシュアップについて
1月25日(水)	各企画の先行事例研究について

[地域協働学習実施支援員について]

・地域協働学習実施支援員の活動実績について

日程	内容
生徒・職員の要請時	活動のサポート、コーディネート
6月24日(水)	魅力化コアチーム委員会(全5回) 学校と地域をつなぐ日常的なサポートについての報告 ・地域における活動実践報告 ・教職員への情報提供、関係者、団体とのコーディネート ・生徒の活動のサポート
7月27日(月)	
9月16日(水)	
12月4日(金)	
1月27日(水)	
4月1日(水)	子育て支援プロジェクト市長表敬訪問
5月9日(土)	ICT活用に関する調査に係る協議
6月3日(水)	海外輸出を展開する畜産業との協議
7月10日(金)	生徒プロジェクトの協議
7月13日(月)	人吉災害支援プロジェクトの協議
7月15日(水)	人吉災害支援プロジェクトの実践サポート
7月29日(水)	「地域人パンフレット」プロジェクト インタビュー対応
7月31日(金)	生徒プロジェクトの実践サポート
10月6日(火)	静岡県立榛原高校との意見交換
10月7日(水)	第15回マニフェスト大賞 応募サポート
11月18日(水)	島根県立津和野高校との意見交換
12月25日(金)	県外の高校、自治体と本校の取組について意見交換

[運営指導委員会について]

・活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
10月12日(月)	第1回運営指導委員会 ・学校現況報告 コロナ禍で取り組んでいる探究活動等 探究活動以外における強化との関係や、教職員全体での取組等 についての協議があった。
2月19日(金)	第2回運営指導委員会 ・今年度の総括及び次年度へ向けて いかにカリキュラム内で活動を実践していくか、事業後も継続 的に学校が取り組んでいけるかについての協議があった。

② 管理機関による主体的な取組について

[コンソーシアムによる取組について]

活動日程	活動内容
令和2年6月20日(日) 飯野高校魅力化の会	今年度事業計画 高校からの現況報告・事業実施に向けての意見交換会
令和2年6月24日(水) 第1回 魅力化コアチーム委員会	今年度の事業説明後、フリーの対話を実施。様々な視点で の話が委員から出された。第2回以降の協議テーマとして 考えていくことが確認された。
令和2年7月27日(月) 第2回 魅力化コアチーム委員会	以下のような意見交換が行われた。 ・地域をフィールドに持続可能な活動を展開していく大人 も共に学ぶ地域ラボのような環境づくりが必要。
令和2年9月16日(水) 第3回 魅力化コアチーム委員会	・生徒の取組をより知りたいという要望より、生徒との対 話を設定。どのような視点でプロジェクト型学習をすす めているのか、支援できることは何かを考えた。
令和2年12月4日(金) 第4回 魅力化コアチーム委員会	・カリキュラム開発専門家から高校生に伴走する上での レクチャーを実施。未来志向で考えることをカリキュラ ム内に盛り込むことも重要という助言があった。
令和3年1月27日(水) 第5回 魅力化コアチーム委員会	・今年度の実践報告が行われた。 ・次年度に向けた意見として、より生徒や先生との接点を 増やす必要性について意見があった。

③事業終了後の自走を見据えた取組について

[自治体との連携]

- ・県教育委員会、えびの市企画課、えびの市教育委員会、飯野高等学校、飯野高等学校同窓
会との連絡協議会を実施。事業後における魅力化について協議。(本年度3回の実施)

[全国からの出願に係る魅力化推進]

- ・本県で唯一の「全国からの出願を認める学校」として、学校と連携して魅力の発信を推進。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【1】①②④⑧ 地域学のカリ キュラム開発			コアチーム 委員会	指導 助言	コアチーム 委員会	研修会	コアチーム 委員会			コアチーム 委員会	指導 助言	研究会 →
				研究 授業		研修会			研究 授業			研究会 →
【1】③⑦ カリキュラム マネジメントの研究												研究会 →
⑤グローバル学習 成果発表会 2020						企画		準備			開催 →	
⑥全国グローバル リーダーズ summit						企画		準備			開催 →	
⑦⑨⑩⑪ 視察研修					SR サミット						アプロ サミット	津和野 視察
【2】【3】 起業家 共同プロジェクトの実践												→

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

本年度は、休校等により計画していた内容・実践を見直すことから始まった。計画で作成したカリキュラム内容の目的に合うものになるよう以下の事に取り組んだ。

「えびの学」（探究の基礎）1年生全学科共通 週1時間

1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・適正診断・地域の職業を知る ・飯野高校での活動について知る・未来予想図づくり
2 学期	地域実習に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・問を見つける ・情報を収集する 地域実習 <ul style="list-style-type: none"> ・実際の現場から問を見つけ情報を整理分析する 実習成果発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・論理的に考え、表現する→プレゼンの作成
3 学期	地域の未来・自分のミライを考える <ul style="list-style-type: none"> ・問を見つける→テーマの設定・情報の整理分析

総合的な探究の時間を代替する学校設定科目で、1年生79名が対象である。内容としては、2年時以降の探究活動にスムーズに移行できるよう地域で探究の基礎を学ぶということをコンセプトに「地域課題を考える」「問を立てること」「情報収集」の方法を1学期の計画を変更し、地域実習による実践を通して学ぶ機会とした。

「地域貢献活動」2・3年生 普通科総合コース 週2時間

学校設定科目で、普通科総合コース2・3年生52名が対象で行っている。休校による計画変更で「えびの市を考える」をテーマ別講話の内容を短縮したが、7月の実習準備を経て予定通り「地域実習」（2年9月～3年7月）を実践することができた。

年	月	実施項目
2	6	えびの市を考える①～② ・市役所出前講座による対話型研修
	7	地域実習に向けて→テーマ設定
	9	地域実習①～⑱
	3	グループ協議（目標設定）→実習→振り返り（課題→解決策）
3	6	地域実習⑳～㉓
	7	グループ協議（目標設定）→実習→振り返り（課題→解決策）
	9	地域実習成果レポート作成 発表プレゼン作成
	12	グローバル学習成果発表会企画会議
	2	グローバル学習成果発表会

【連携事業所（実習施設）】えびの市立飯野小学校、社会福祉法人慶和会、医療法人武雄会、株式会社エコープみやざき、えびの市民図書館、JAえびの市、道の駅えびの、えびの市立上江小中学校

約1年間の実習中に考えた課題テーマの解決に向けた実践を行った（グループ協議（目標設定）→実習→振り返り（課題→解決策）※繰り返す）。実習終了後は、活動全体の個人レポートの作成、発表会に向けたプレゼン資料やポスター作成を行い、グローバル学習成果発表会の実行委員会を組織して企画・運営をすべて行う。

「地域探究活動」 2・3年生 普通科探究コース 週1～2時間

普通科探究コース2・3年生67名が対象に取り組んだ。身の回りや地域課題から問を見つけ、テーマ設定を行いプロジェクト化し、20プロジェクトが実践している。活動の際は、多様な人々、機関、団体との協働している。

グローバル学習成果発表会、高校生の全国サミットをはじめ県内外の高校生とオンラインで対話をする機会にも積極的に参加している。今年度は、オンライン海外研修や海外留学を考えていた生徒がカンボジアの起業でオンラインインターンを実践するなどコロナ禍でも可能な地域を考える上で海外とのつながりを持つ生徒が増えたことが顕著であった。

年	月	実施項目
2	6	地域課題から問を見つけテーマ設定する ・“地域人”へのインタビュー ・テーマ設定・情報収集及び整理・分析 ・実践に向けて課題解決策を考える
	7	・3年生によるポスターセッション 実践する①
	9	実践①から実践②へ
	10	・えびの未来カフェオンライン ・実践①の評価と新たな問を見つける
	11 3	実践②の評価と新たな問を見つける
3	6 7	課題解決に向けた実践③～④ ・ポスターセッション
	9 12	個人レポート作成 発表プレゼン作成
	2	グローバル学習成果発表会

「地域支援活動」 3年生 生活文化科 週4時間（※1・2年生→家庭科専門科目内で実施）

2年生までは、専門科目の中ですべての生徒が家庭科の専門力を活かしたすべてのプロジェクトに携わり、多様な人と関わりながら実践から学びをえる。この学びを3年生で「地域支援活動」と位置付ける課題研究の中で活かして、自らプロジェクトをたちあげ実践を行った。内容としては、5～10月に週2時間の施設実習を行い専門教科の学びから課題解決をはかる活動とした。休校期間中には不足するマスクを製作し、実習先などに配布するなど高校で身につけたスキルを地域へアウトプットとする活動を実践に移すことができた。えびの産業文化祭でも規模を縮小して地域特産物の開発・販売の実践を行った。

年	月	実施項目
2		科目名 ○フードデザイン→SAPと連携した地域特産物開発 ○ファッション造形基礎→子育て応援プロジェクト（小物作り） ○発達と保育→子育て応援プロジェクト（運動会企画） ○生活美学→高齢者支援プロジェクト
	6	地域実習①～⑩ グループ協議（目標設定）→実習
	10	→振り返り（課題→解決策） ※事業所における課題から専門領域を活かした解決策の提案、実践
	9	個人レポート作成
3	12	発表プレゼン作成
	1	グローバル学習成果発表会

【連携・協力先※実績】えびの市子育て支援センター、えびのボランティアクラブ、えびの市立飯野小学校、えびの市立飯野中学校、えびの市立真幸小学校、JAえびの市青年部、JAえびの市女性部、えびの市出身プロモデル（増元美喜氏）、裏千家、えびの市SAP会議、えびの産業文化祭実行委員会、えびの市社会福祉協議会、飯野保育園、社会福祉法人慈愛会

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

各学科・コースに以下の学校設定科目をカリキュラム化している。

学科 コース	1年生	2・3年生		
	全学科	普通科総合コース	普通科探究コース	生活文化科
科目 名	えびの学 週1単位	地域貢献活動 週2単位	地域探究活動 週1～2単位	地域支援活動 週4単位

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

実施内容	詳細
カリキュラム・マネジメント研修会	本校の探究活動をより深化させるため、教科横断のグループで各教科の実践について協議 →各科目で実践

④類型毎の趣旨に応じた取組について

研究開発をすすめている「地域貢献活動」「地域探究活動」「地域支援活動」では、生徒たちが以下のようなテーマを設定して実践を通じた活動を行った。

〔地域貢献活動 活動テーマ〕

- ・地域の人が使いやすい店舗（A コープ）
- ・健康に育つ保育の環境づくり（飯野保育園）
- ・利用者のストレス軽減（グループホームあおい）
- ・地域の人が親しみやすい図書館（えびの市民図書館）
- ・えびのの特産品を広めるために（道の駅えびの）
- ・レクレーションで利用者を笑顔に！（ほうよう）
- ・未来を担う児童が育つ環境づくり（上江小学校）
- ・子どもたちを導く環境づくり（第二和光幼稚園）
- ・「あそび」から学ぶ環境づくり（飯野小学校）

〔地域探究活動 探究テーマ〕

- ・農創生プロジェクト
- ・共に学ぶ場づくり
- ・地域環境プロジェクト
- ・eスポーツで地域を元気に
- ・プレーパークプロジェクト
- ・ゆるスポーツ
- ・合宿誘致プロジェクト
- ・海外×地域プロジェクト
- ・子育て支援プロジェクト
- ・グローバルリーダーズサミット
- ・吉都線活性化プロジェクトなど

〔地域支援活動 活動テーマ〕

- ・正一：マスコット作成 SAPラベルづくり
- ・SAP：スイートコーン、トマト、ピーマンづくり 各農場での活動
- ・Aコープ：POP作成、ご当地グルメコンテスト試作づくり
- ・RIZHAIR：ヘアゴム・アクセサリーの作成→お客さんへのプレゼント
- ・グループホームあおい：コースター作成 月ごとのカレンダーに塗り絵付け
- ・ほうよう：ティッシュケース作成、デイサービス利用者向け「お楽しみ会」企画
- ・飯野保育園：壁飾り作成、水遊び道具の開発、ボタン付け練習用キット作成 など

⑤成果の普及方法・実績について

各研修会やメディアを通じて本校の取組を発信している。

- ・グローバル学習成果発表会の開催（県内外、市内中学校、地域住民 計100名参加予定）
- ・全国グローバルリーダーズ summit の実施（県内外から100名参加予定）
- ・全国高等学校教育改革研究協議会 事例紹介
- ・令和2年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業担当者会議」事例発表
- ・MSEC（みやざきSDGs教育コンソーシアム）参画
- ・宮崎学園高等学校 特別進学科「総合的な探究の時間」授業
- ・宮崎県立都城西高校職員研修 事例紹介・ワークショップ
- ・えびの未来カフェの開催（本校生+地域住民90名参加 ※オンライン）
- ・MRT（宮崎放送）みらい みやざき まなび隊「地域探究活動」授業紹介
- ・UMK（テレビ宮崎）スーパーニュース 「地域探究活動」紹介

- ・MRT（宮崎放送）ニュース Next 「地域支援活動」紹介
- ・NHKニュース 「地域支援活動」紹介
- ・第15回マニフェスト大賞 優秀政策提言賞
- ・宮崎日日新聞掲載「地域貢献活動」「地域探究活動」「地域支援活動」
- ・視察受入（静岡県立榛原高校、島根県立津和野高校、長崎県立佐世保西高校、こゆ財団）
- ・静岡県マイプロジェクト教育関係者研修会
- ・キャリアガイダンス掲載「地域探究活動」リクルート
- ・VIEW21掲載「地域探究活動」ベネッセ
- ・大学新聞掲載 大学新聞社
- ・月間ガバナンス掲載
- ・島根県立津和野高等学校職員研修
- ・三重県立飯南高等学校職員研修

1.1 目標の進捗状況，成果，評価

コロナ禍により今年度の活動が危惧されたが事業指定を受け2年目の実践は、昨年度までの取組が生き、休校中から生徒主体の実践が見られた。これは、実践を通じた生きた学びから得られたものではないかと手ごたえを感じている。3年生では30以上の地域におけるプロジェクトが展開された。コンソーシアムとの協働も2年目に入って深まってきたことや地域と高校の結びつきがこれまで以上に強まったことが大きい。その成果を報告するグローバル学習成果発表会では、生徒が運営するオンライン開催で全国から100名以上の参加があった。社会全体が変容を迫られる中「できることをやる」姿勢がこの1年で生徒に浸透していったことは大きな成果だといえる。本年度の県内への就職状況は86%（目標値80%）と設定目標を超え過去10年で最高であった。今後、細かな数値評価もしていき3年目につなげたい。

<添付資料> 目標設定シート

1.2 次年度以降の課題及び改善点

2年目を終え、生徒たちの本事業による取り組みが高校を核とした地域創生に強いインパクトを与えていると実感している。地域とのつながる活動は、「社会に開かれた教育課程」の実現とカリキュラム・マネジメントの実践にもつながっている。教科での学習活動にも探究の要素がしだいに入ってきており、最終年度である次年度は、さらに発展的に取り組んでいきたいと考えている。また事業終了後の自走に向けても重点的に取り組んでいきたい。

【担当者】

担当課	宮崎県教育庁高校教育課	TEL	0985-26-7033
氏名	岩崎 晃裕	FAX	0985-26-0721
職名	指導主事	e-mail	iwasaki-akihiro@pref.miyazaki.lg.jp